# 浜田市と島根県立大学の共同研究事業「浜田市再犯防止推進計画策定に伴う、地域住民の再犯防止に係る意識調査」/あさひ社会復帰促進センター・浜田市・島根県立大学三者協定の事業

島根県立大学総合政策学部

豊田ゼミ

森原千尋　佐藤和貴　板垣朝美　越智光志　青戸里菜　大藤陽斗
杉原拓樹　高尾恭士　田中慶之介　光正羽音　渡辺優太

# 島根あさひ社会復帰促進センターとは

# 島根あさひ社会復帰促進センター

・浜田市旭町に位置する、官民協働の刑務所
・犯罪傾向の進んでいない男子受刑者等、2000人を収容
・地域交流エリアがあり、地域住民との交流も図っている
・欧米において再犯率の低下が実証されている更生プログラムを導入

出典：島根あさひ社会復帰促進センター

# プロジェクト概要

# プロジェクト概要

・市役所、保護司、センター受刑者へのヒアリング

・浜田市民へ再犯防止の意識調査アンケート

→浜田市とセンターと共同で再犯防止推進計画策定

# 再犯防止推進計画策定の目的

・再犯者は平成18年をピークに減少傾向
・一方、再犯者率は平成30年に平成で最も高い48.8%
・全体の6割の犯罪が再犯者によって行われている

→市民が犯罪による被害を受けることを防止し、安全で安心して暮らすことができる社会の実現に向け、浜田市の方向性の実現を明らかにするため

# 市役所、保護司、センター職員、受刑者へのヒアリング

# ヒアリング調査

再犯者の立ち直りを助ける「専門部会」の方の
活動を知り、犯罪者の立ち直りのために取り組み
きれていない所を聞き、今後どのような取り組み
が必要かアンケート調査行うための調査。

# ヒアリングリスト

| 日時 | 場所 | 名前 | 参加者 |
|---|---|---|---|
| 2021/7/13 | 浜田まちづくりセンター | 保護司 | 佐藤,高尾,越智,大藤 |
| 2021/7/16 | | 松江保護観察所統括保護観察官 | 佐藤,高尾 |
| 2021/7/21 | 浜田市社会福祉協議会 | 浜田市社会福祉協議会 | 佐藤,高尾 |
| 2021/7/27 | あさひ社会復帰促進センター | 訓練生 | 板垣,光正,青戸,杉原,田中,渡辺 |
| 2021/7/27 | あさひ社会復帰促進センター | あさひ社会復帰促進センター看守部長 | 板垣,光正,青戸,杉原,田中,渡辺 |
| 2021/7/27 | あさひ社会復帰促進センター | 社会福祉士 | 杉原,田中,渡辺 |

# 質問と回答の例（刑務官）

Q.一番身近で多くの訓練生を接している立場から、浜田市の再犯防止に対する取り組みに何を求めるか

A.就労支援の充実。出所者の雇用をする企業を増やすこと。

# 質問と回答の例（浜田警察署）

Q.中学校や高校などの学校へ行き再犯防止活動を若者に周知
　するような機会がありますか？

A.浜田警察署は学生が犯罪の被害を受けないようにするために
　防犯教室を開いているが、自身が犯罪をしないためや、犯罪
　者を理解するための教室は行っていない。

→犯罪者理解が弱い傾向にあるかもしれない。

# 浜田市の再犯防止に関する
# アンケート調査

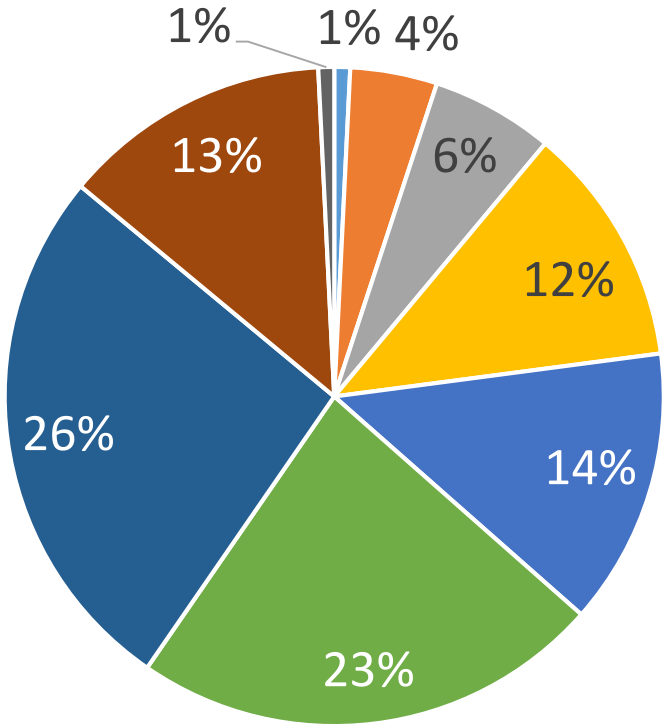
## 分析結果と考察
## (10月19日時点集計データ)

# アンケート項目
# 回答者の情報

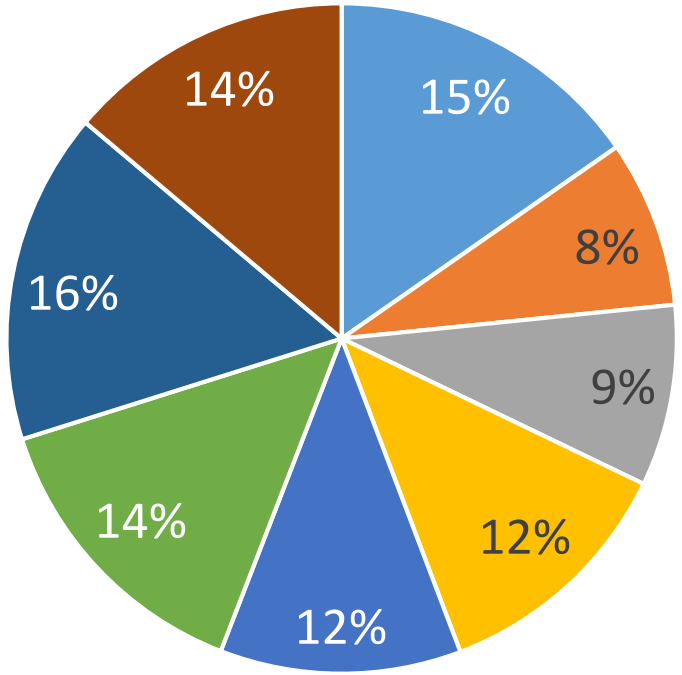
# 質問2. 回答者の年齢層

回答者総数515名（浜田市の総人口の1%）
男性：206名　女性：298名

年代別の回答者数の割合(%)




浜田市の年代別人口(R3)(%)

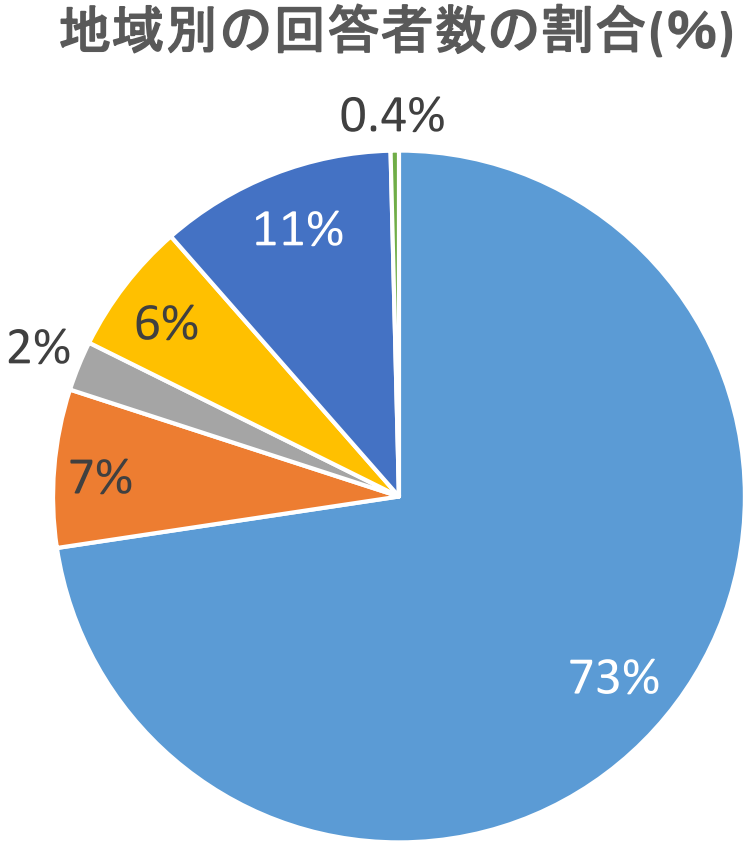


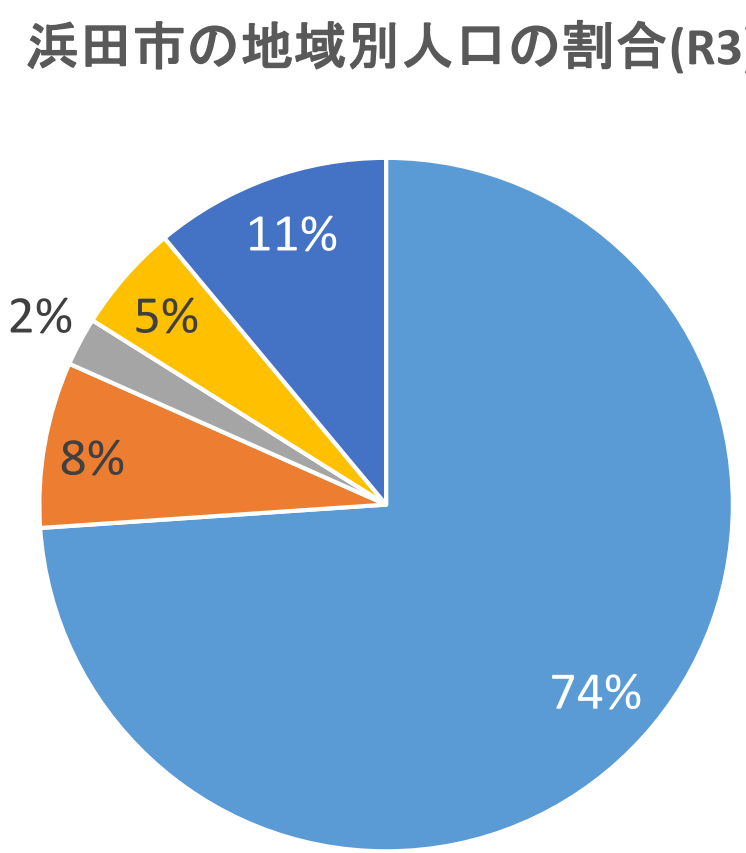

■ ～19 ■ 20～29 ■ 30～39 ■ 40～49 ■ 50～59 ■ 60～69 ■ 70～79 ■ 80～ ■ 無回答　(歳)

・回答者は50代と60代が多く、浜田市の年代別人口と比較してもその割合は大きい。

・一方で若い人の回答は浜田市の年齢別人口と比較しても少ない。

# 質問3. 回答者の居住地域



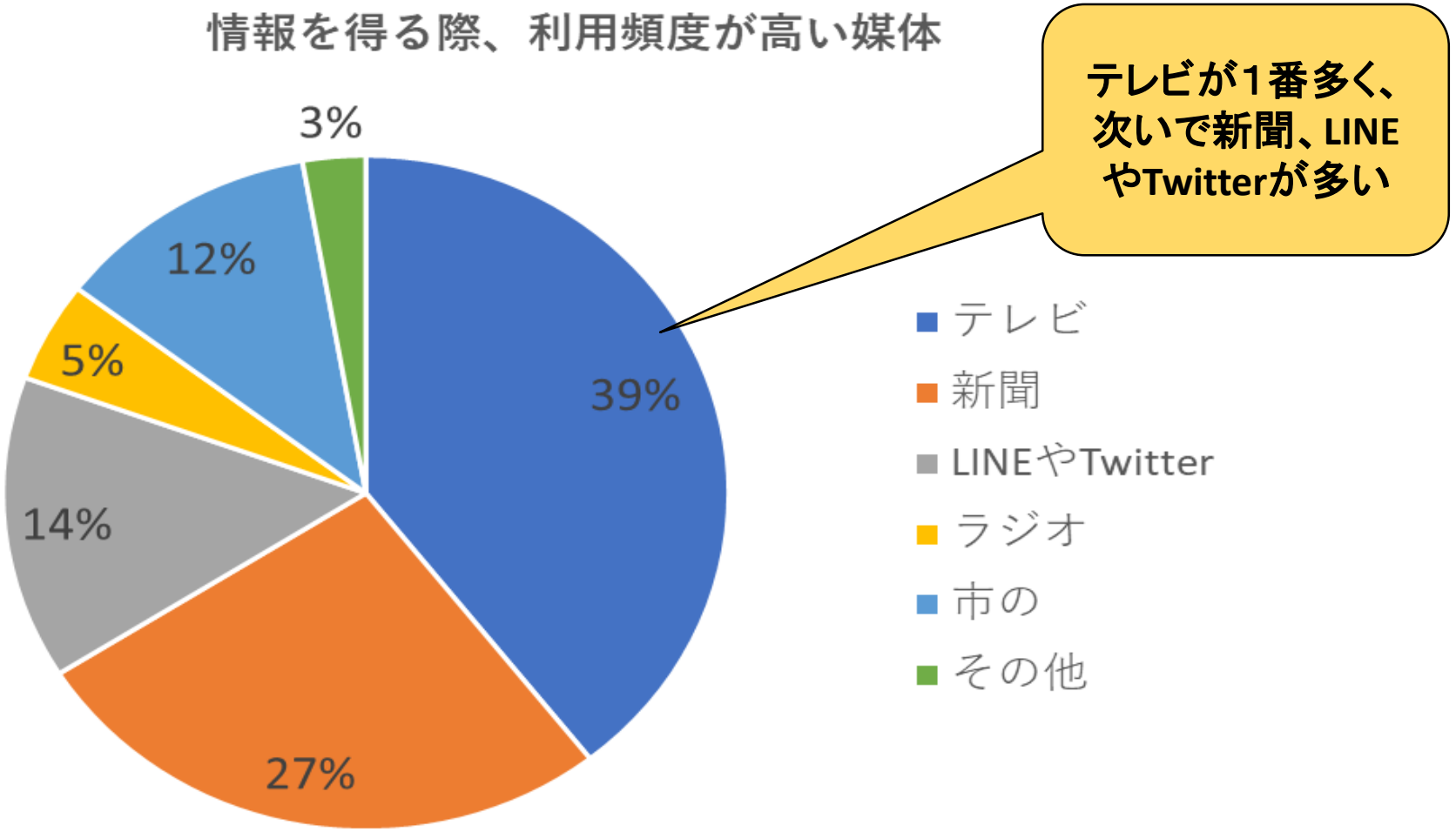




回答者の居住地域ごとの割合は、浜田市の地域別人口の割合とほぼ同じ

浜田 金城 弥栄 旭 三隅 無回答

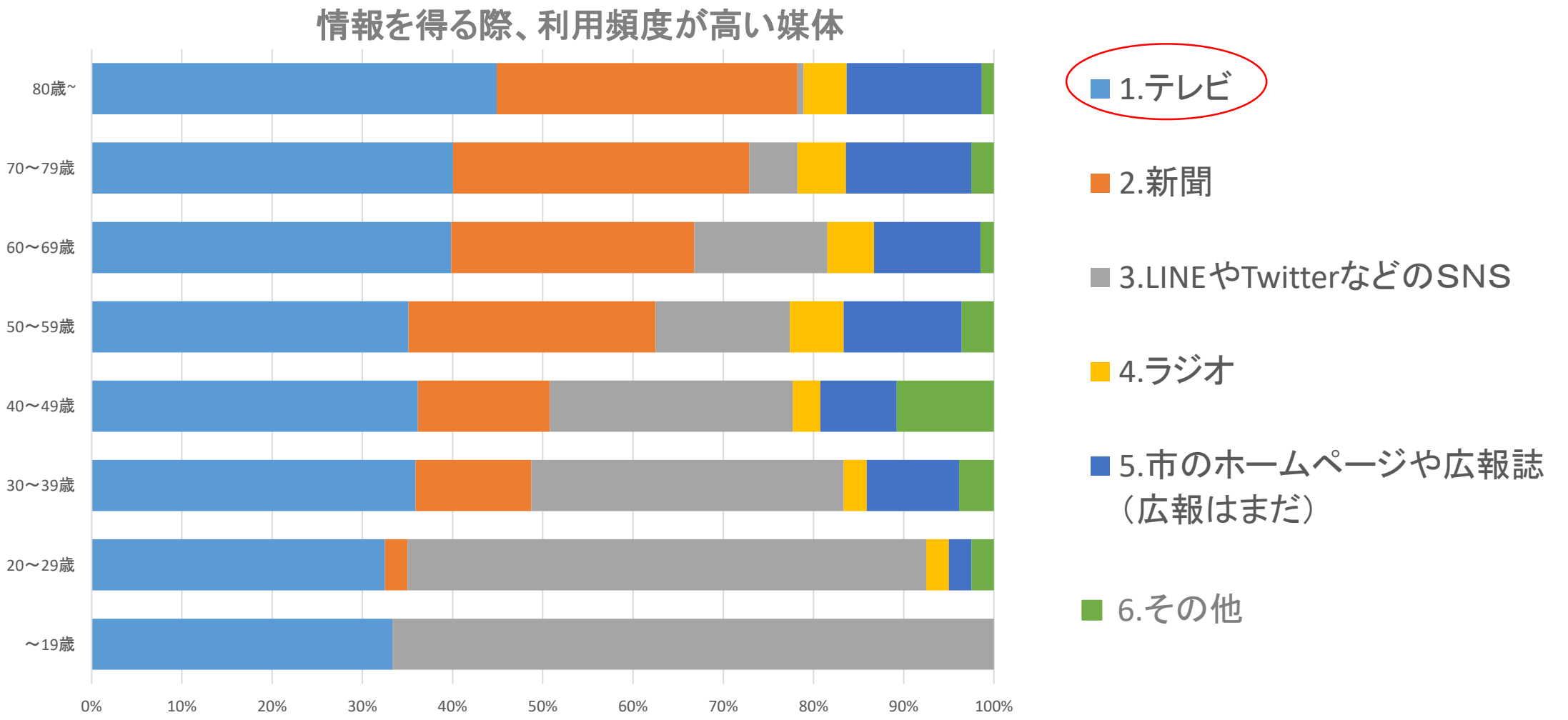
# アンケート項目
# 利用頻度が高い情報媒体

# 全体




※「その他」の回答としてスマートフォン等を利用したインターネットでの情報収集が多かった。

# 年齢別


情報を得る際、利用頻度が高い媒体
80歳~
70～79歳
60～69歳
50～59歳
40～49歳
30～39歳
20～29歳
～19歳
0%
10%
20%
30%
40%
50%
60%
70%
80%
90%
100%
1.テレビ
2.新聞
3.LINEやTwitterなどのSNS
4.ラジオ
5.市のホームページや広報誌（広報はまだ）
6.その他

# 考察｜利用頻度の高い情報媒体について

・テレビと新聞が全体の半数以上の割合を占める。(66%)
・年代別に見ても、テレビと回答した割合は世代間の差が少ない。
→**テレビ**での発信が**全世代に対して効果的**
・50代以上の方についてはテレビと新聞の割合が同じくらい。
→**新聞**での発信も**効果的**

・若い方は情報を得るためにSNSをよく利用する。
→10～40代への発信にはSNSが効果的

・市のホームページや広報誌から情報を得る人の割合は50代以上で回答者の約10%と、全体の割合としては大きくない。

# 考察｜利用頻度の高い情報媒体について

(学生の意見)

・「テレビ」と言っても、日常的によく見るチャンネルは全国放送のものが多いのではないか。

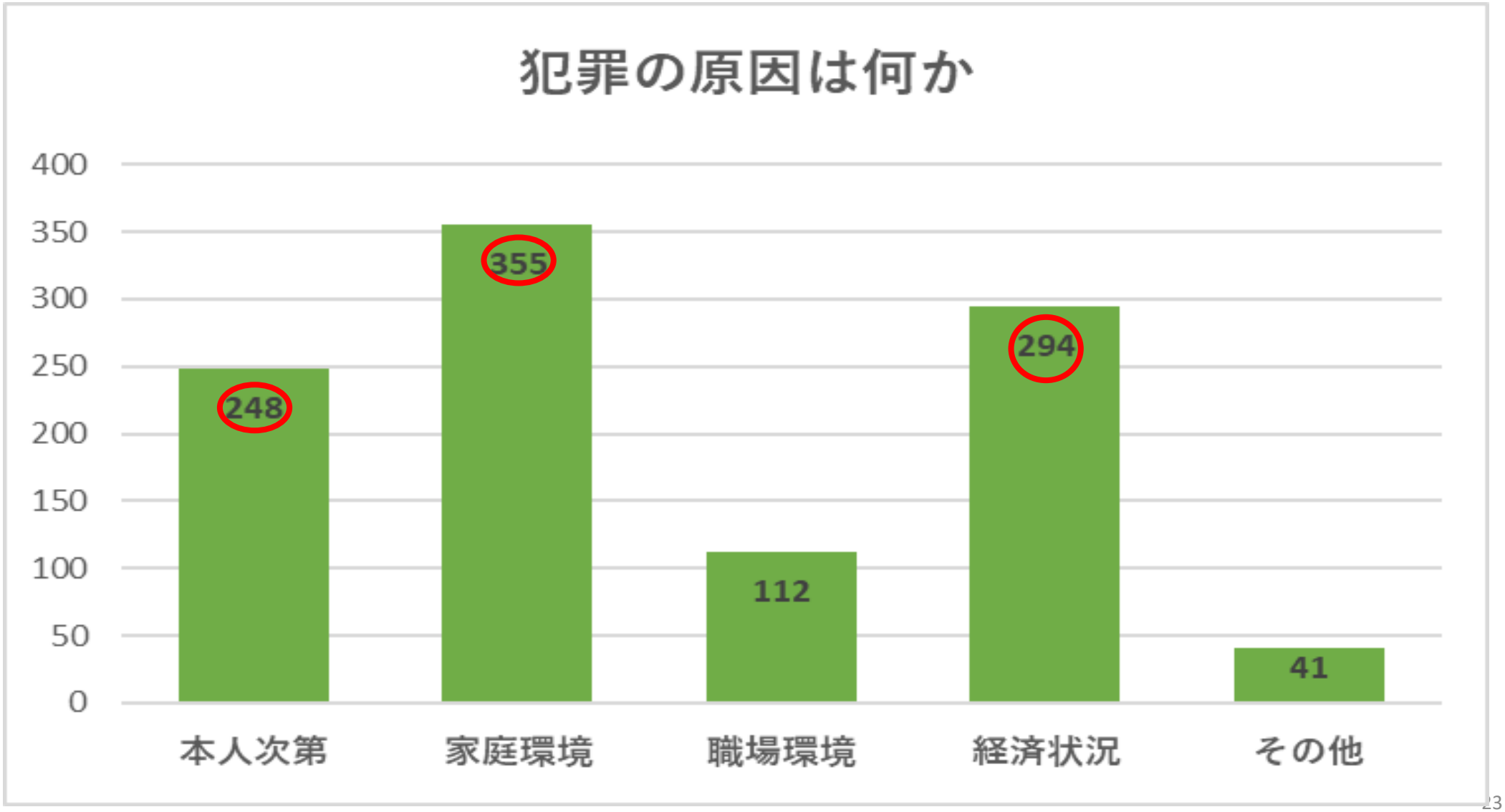
→再犯防止についての情報を伝えるためのCMや番組の放送等は難しいのではないか。「テレビ」というよりローカル番組等を良く見る人がどれくらいいるかを調べた方がよい。

・SNSは情報を得ようとしないと得られない(特定のワードを検索しなければページにたどり着かない)

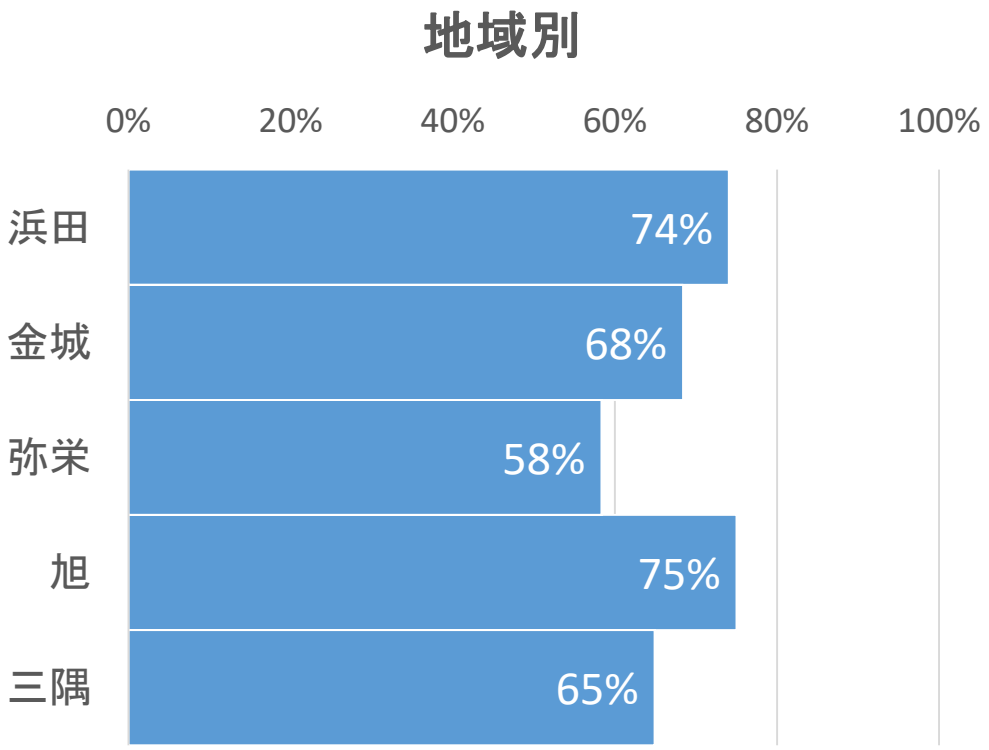
→SNSを利用すれば必ず若者に情報が届くとは限らない。

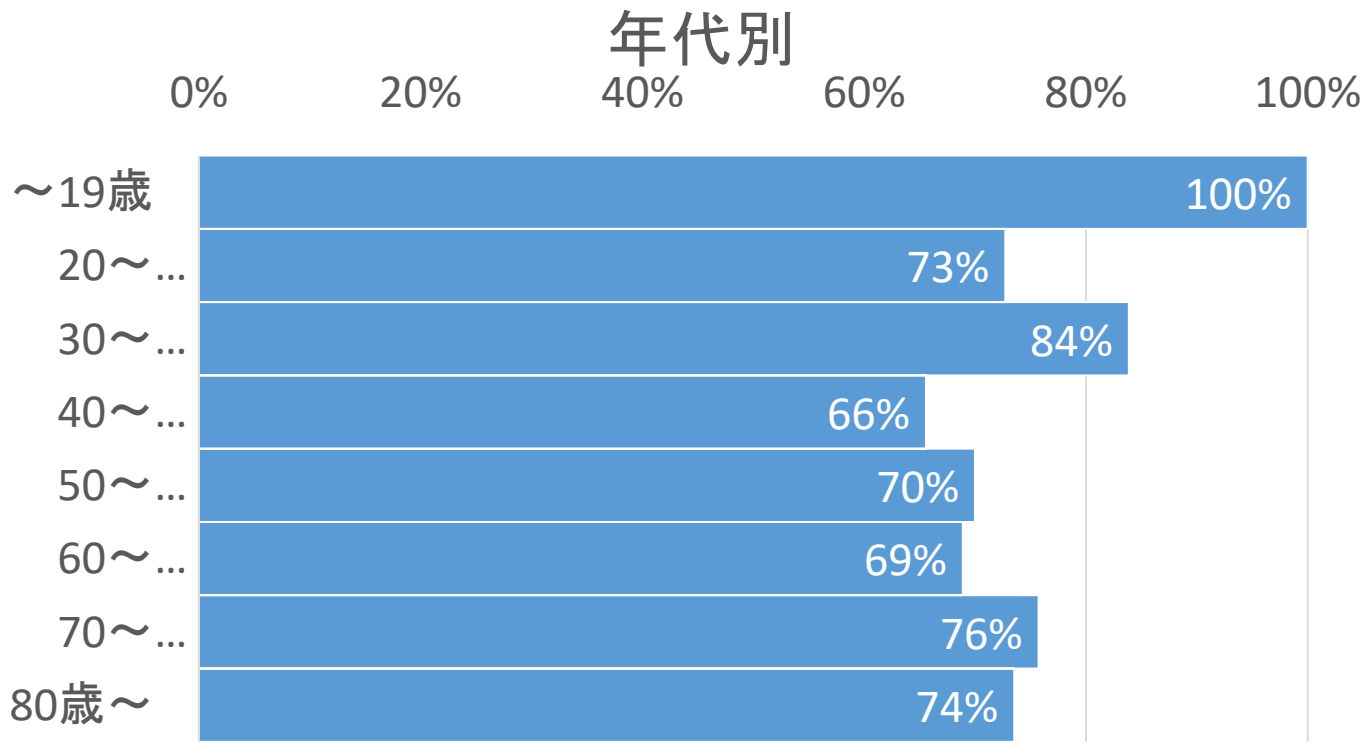
# アンケート項目
# 犯罪をした人に対する認識

# 質問6. 犯罪の原因


犯罪の原因は何か
400
350
300
250
200
150
100
50
0
248
355
112
294
41
本人次第
家庭環境
職場環境
経済状況
その他

# 地域別・年齢別 「本人次第」と答えた割合




全ての地域・年代で約60%以上が「本人次第」と考えている

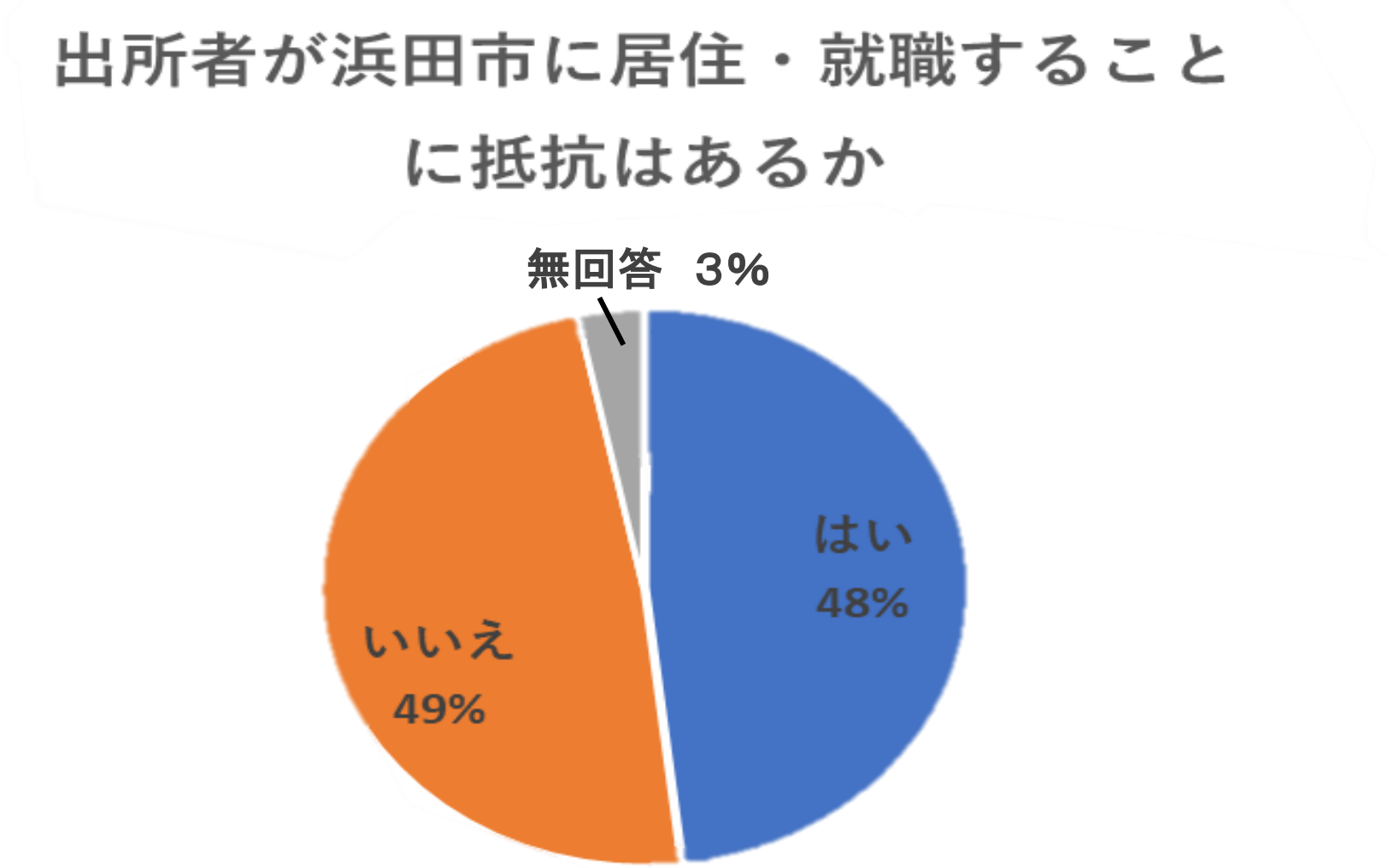
# 考察｜犯罪の原因について

- 犯罪の原因として「家庭環境」と「経済状況」の回答が多い。
- →本人以外にも犯罪の原因があると考える市民も多い
- 「本人次第」は上記2つに次いで3番目に多い回答となったが、依然として犯罪の原因は本人にあると考える人も多い。

(学生の意見)

- 家庭環境…出所者だけでなく家族(受け入れる側)への心のケアも大切ではないか。
- 経済状況…専門部会へのヒアリング調査においてもお金が無いため盗みに手を染めてしまう事例を聞き、経済的支援が重要であると感じた。

# 質問7. 出所者の居住・就職への抵抗



# 考察｜出所者の居住・就職への抵抗について

・出所者の浜田市への居住・就職に抵抗がある人とない人がおよそ半分ずつ

→抵抗がある人や出所者への配慮として、出所者の個人情報を守ることが必要。

…民間協力者や住民、社員等から出所者の個人情報が漏洩しないようにする必要がある。

・地域差はあるものの、全ての地域で約50%は抵抗が無いと回答

→浜田市全体的に、比較的出所者の社会復帰に協力的

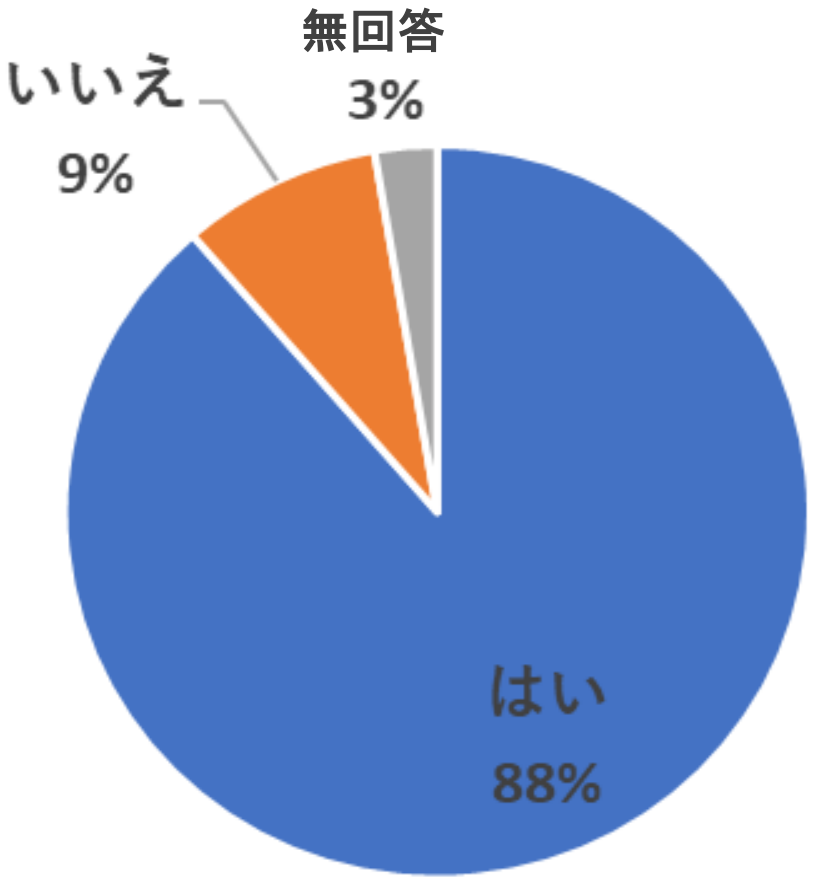
(学生の意見)

・地域の人と仲良くすること・イベントに参加すること等の条件付きで民間のアパートを貸す支援などを取り入れてはどうか。

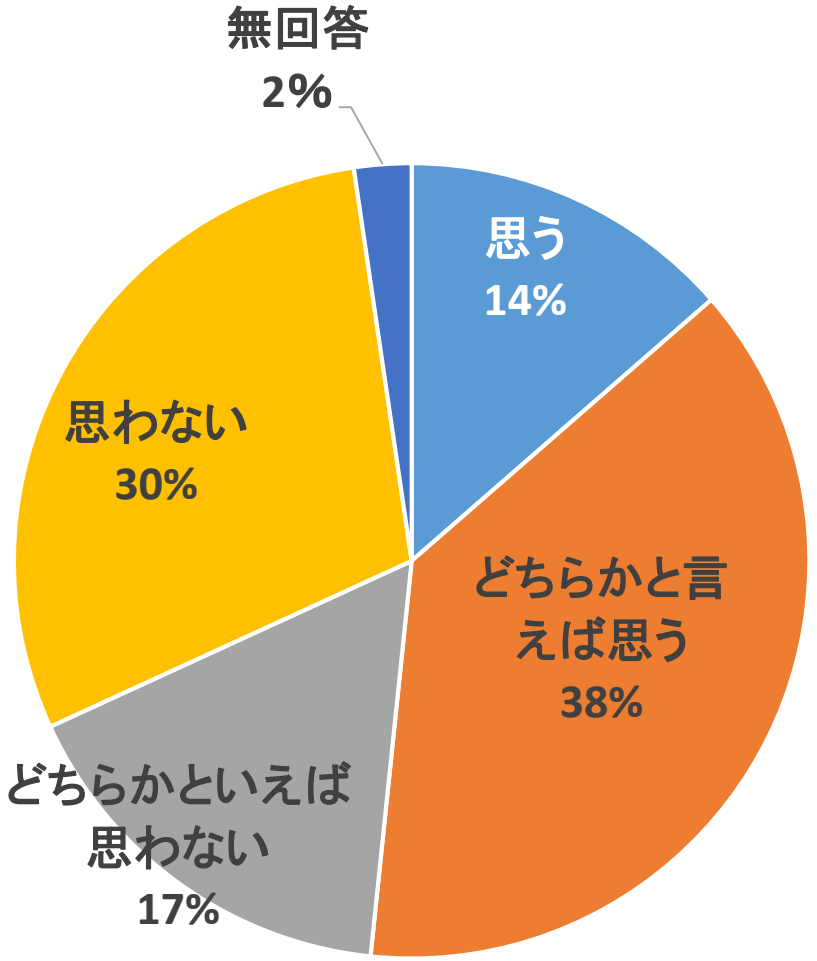
# アンケート項目
# 出所者の社会復帰支援

# 質問8･9. 社会復帰への協力

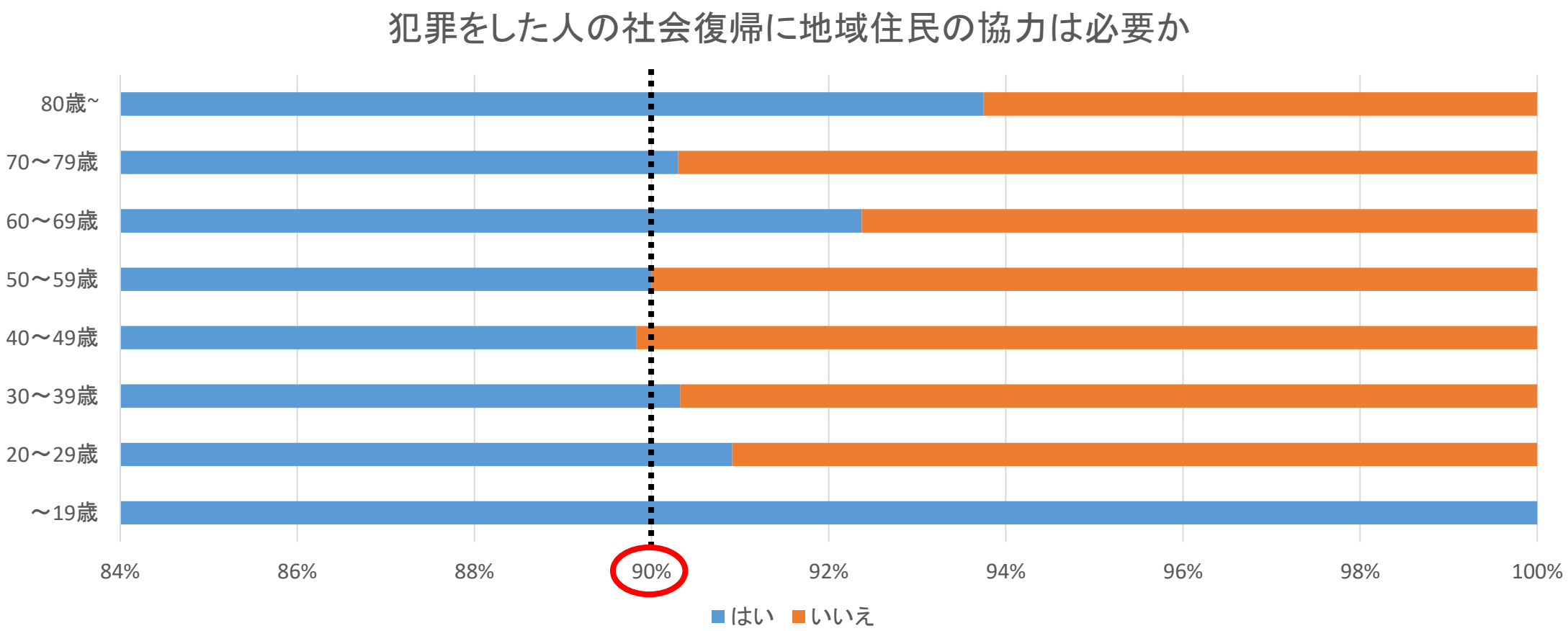
犯罪をした人の社会復帰に地域住民の協力は必要か



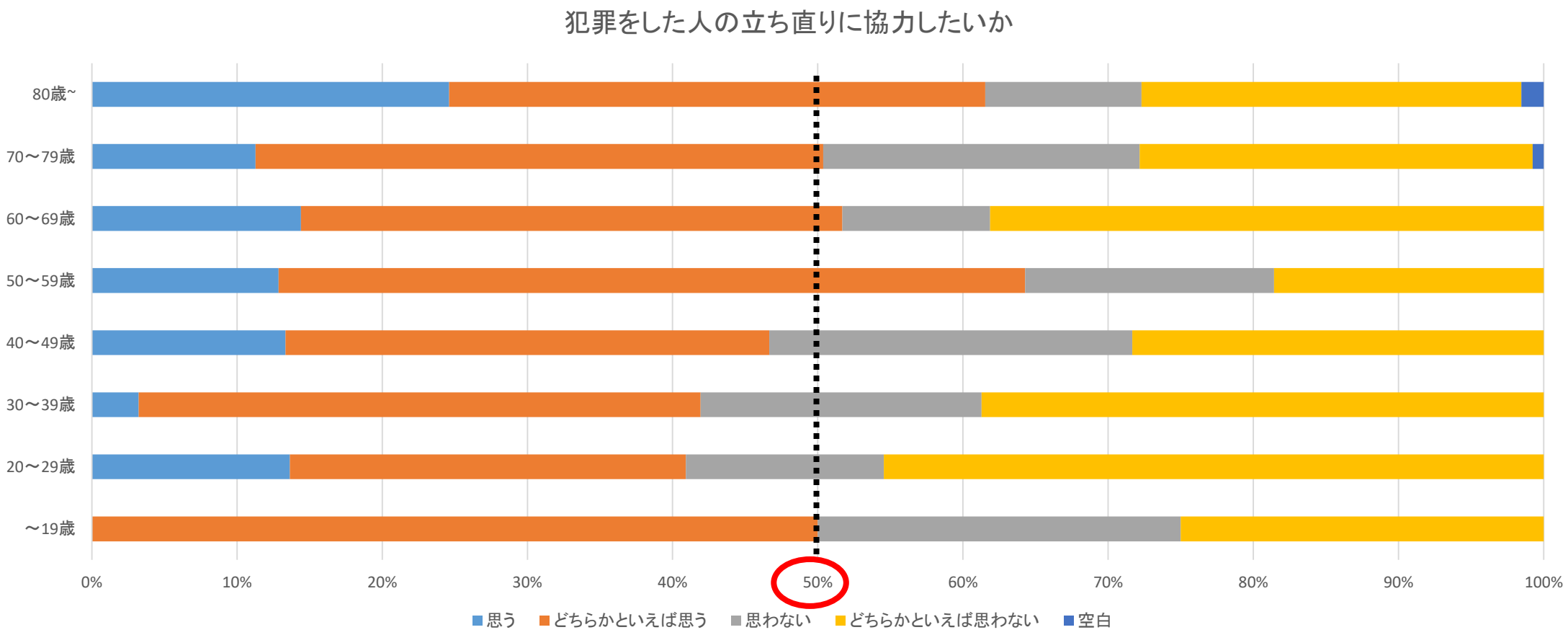

犯罪をした人の立ち直りに協力したいか



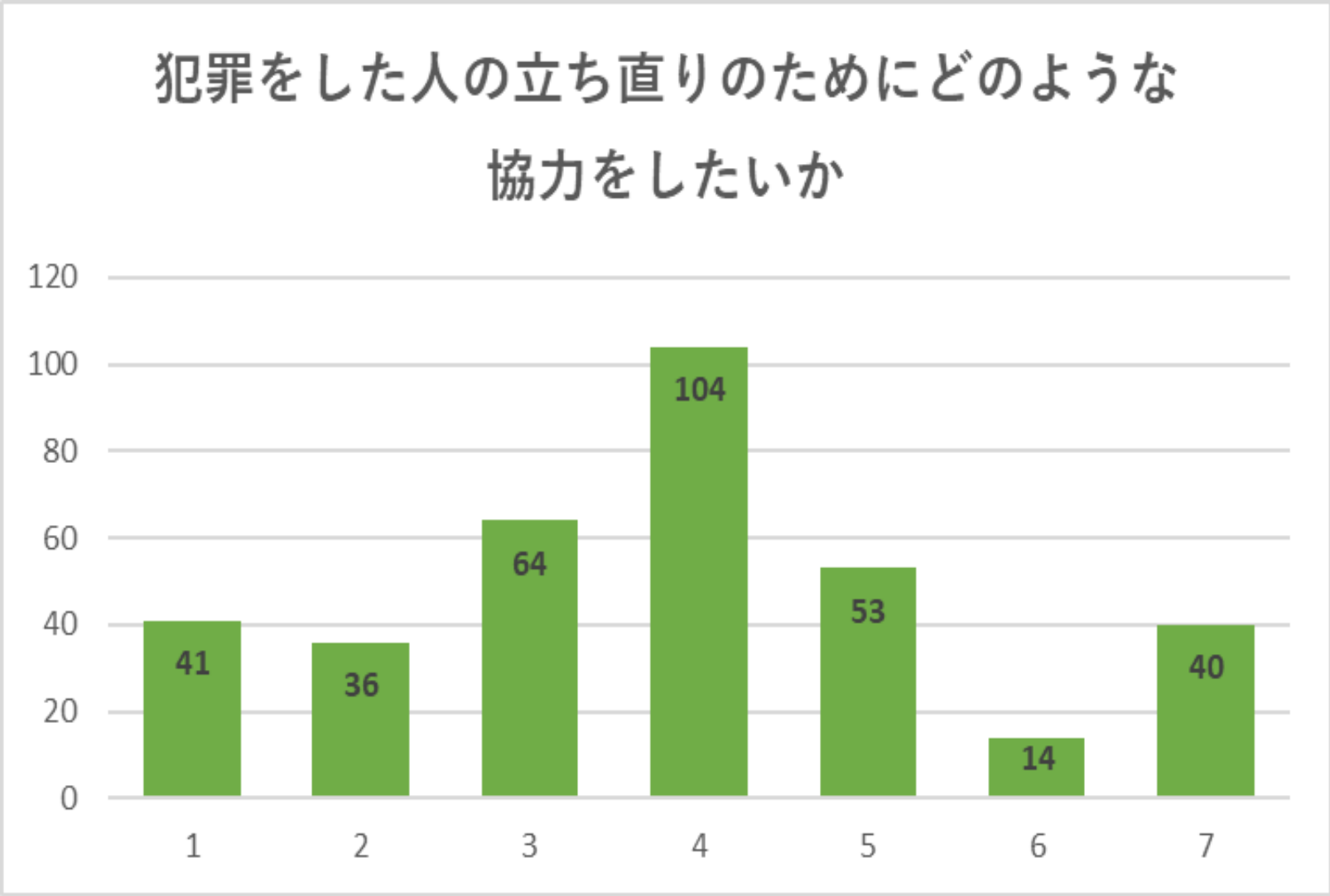
# (年代別) 社会復帰に地域住民の協力は必要か



# (年代別) 犯罪をした人の立ち直りに協力したいか

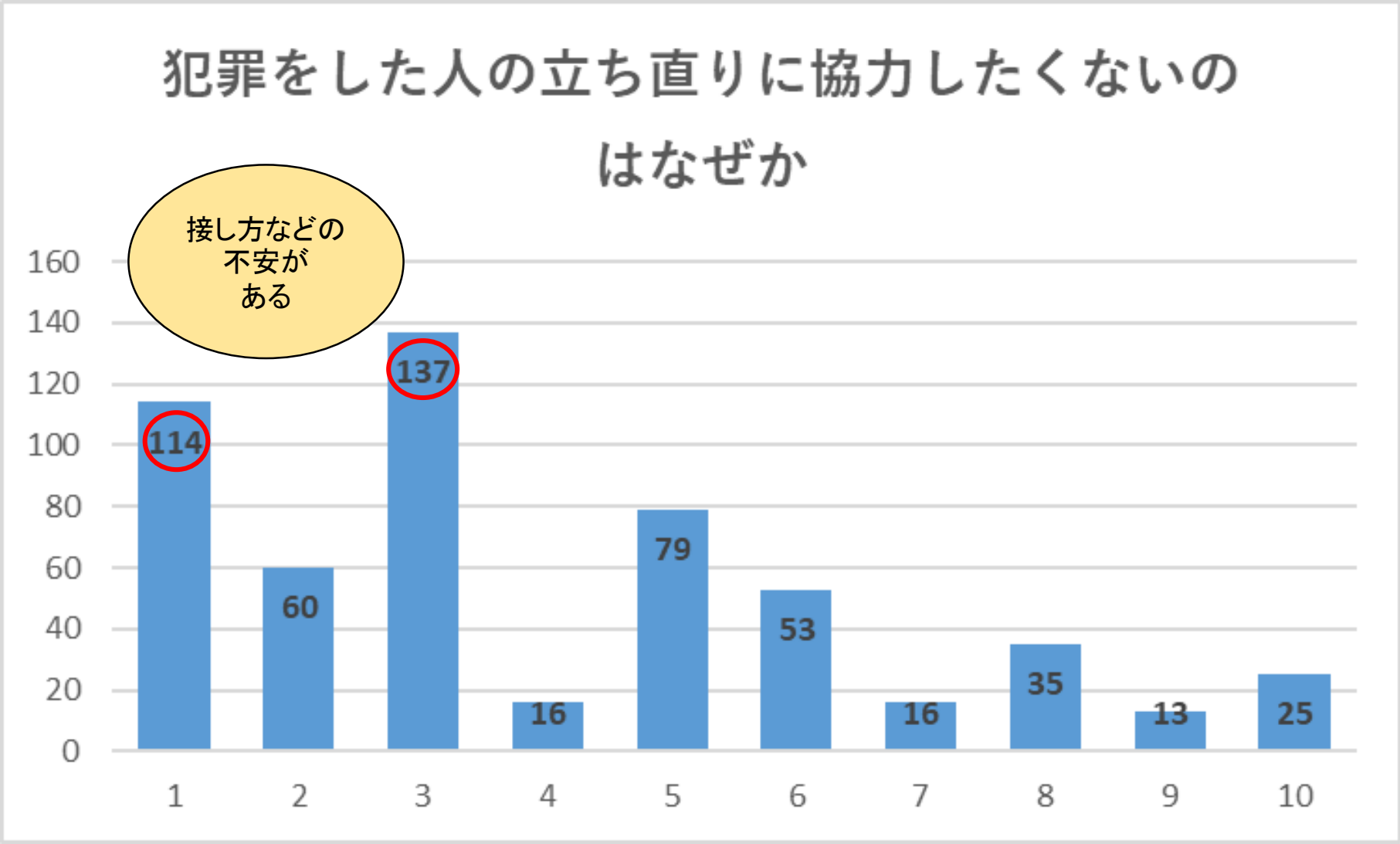


# 質問10. どのような協力をしたいか




1. 助言や援助
2. 協力雇用主
3. 更生保護施設等に寄付
4. 再犯防止に関するボランティア
5. 広報・啓発活動に参加
6. インターネット活用
7. その他

# 質問11. どうして協力したくないか




1. 不安だから
2. 関りを持ちたくないから
3. どのように接すればいいかわからない
4. 自分自身にメリットがない
5. 具体的なイメージがわかない
6. 時間的余裕がない
7. 興味がないから
8. 地方公共団体が行うべき
9. 支援すべきでないから
10. その他

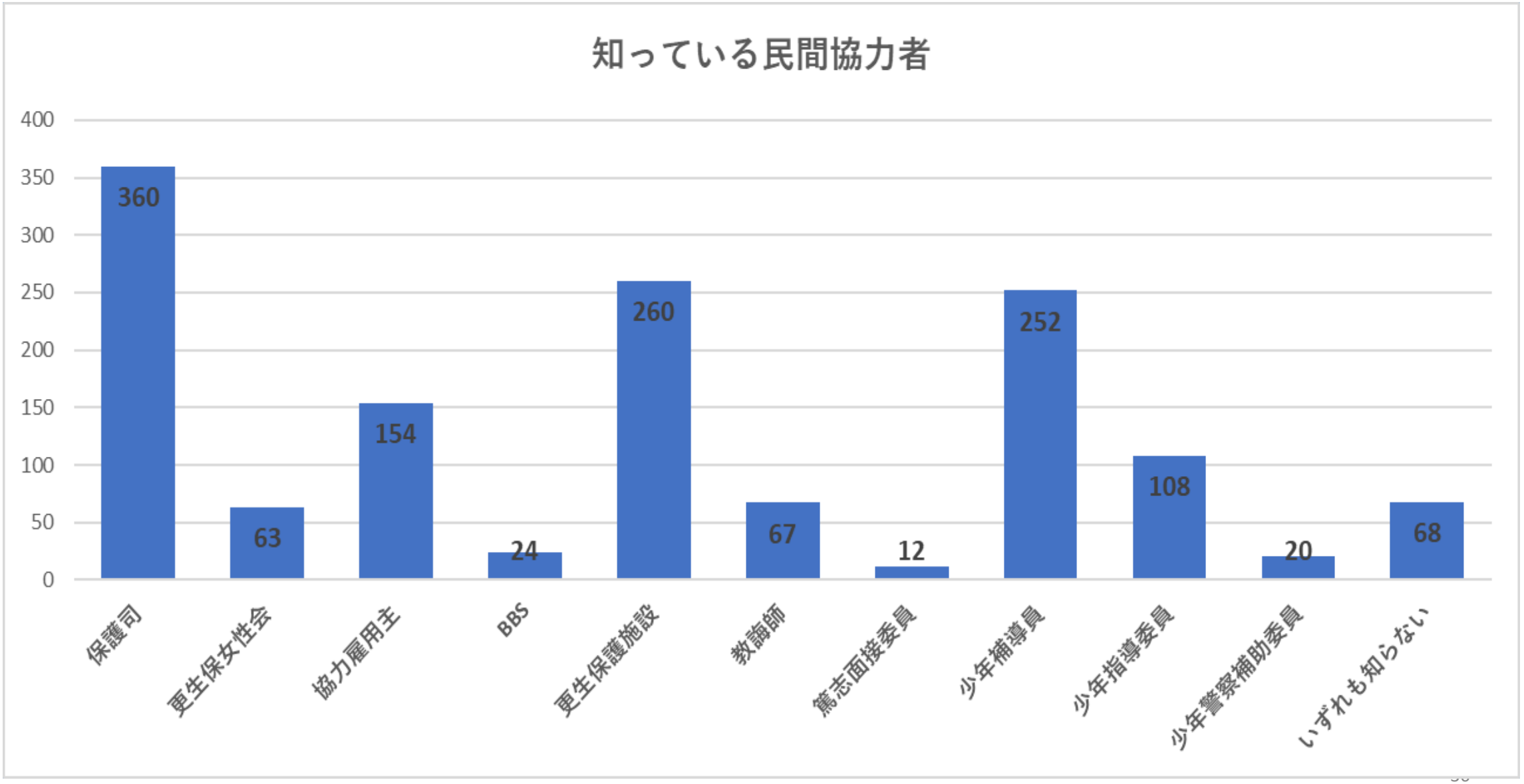
# 考察｜出所者の社会復帰支援について

・出所者の社会復帰に地域住民の協力が必要だと考える人が多い。
(全体で88%、年代別でもほぼ全ての年代で90%以上)
・一方で、実際に協力したい人は全体で43%にとどまる。
→協力は必要だと思うが自分はしたくないという人が少なくない

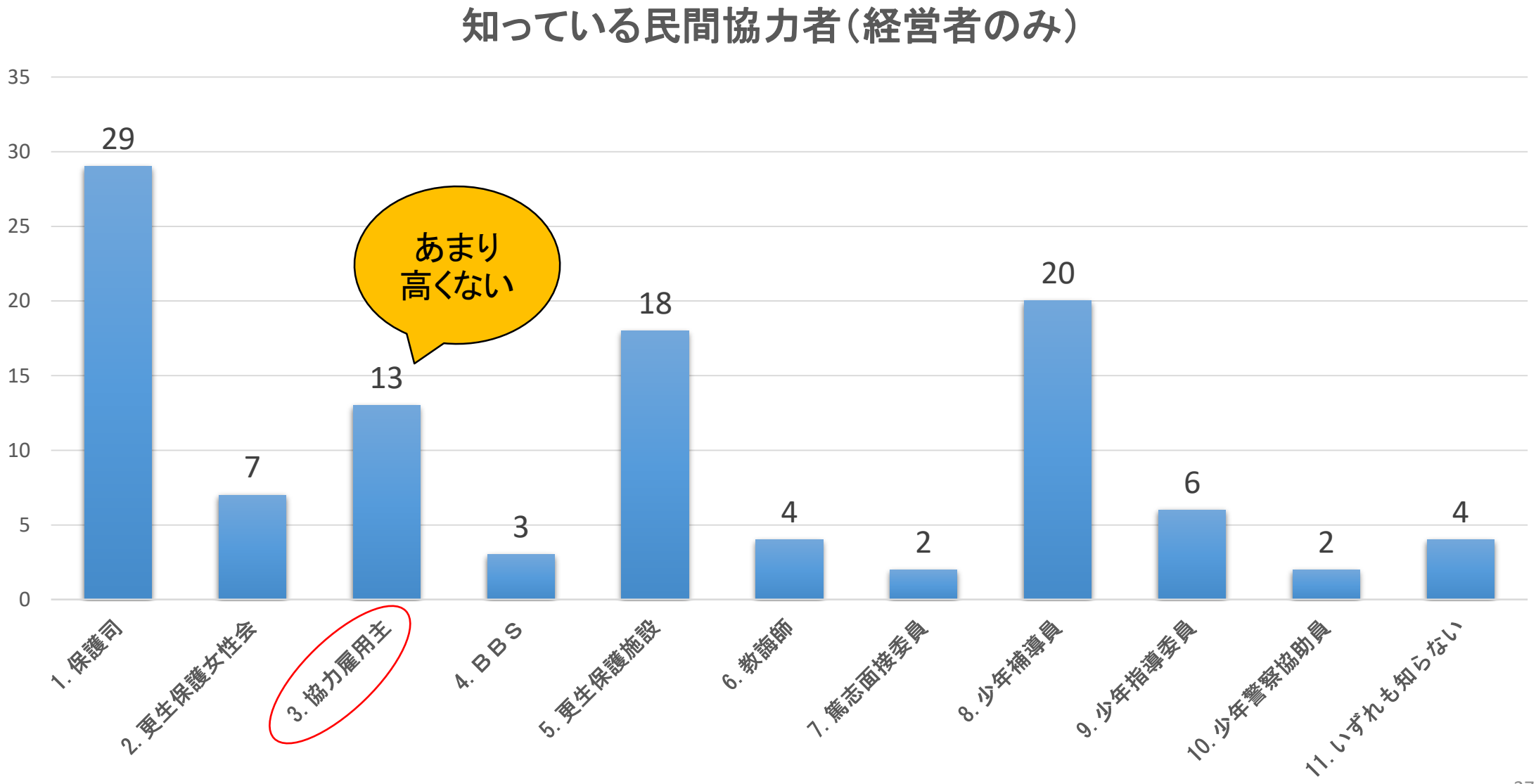
・具体的な支援は、出所者に直接対面するものは回答数が少ない。
(助言や援助、協力雇用主として雇うこと)
・協力したくない原因は情報不足によるものが多い
(不安を感じてしまう、接し方が分からない)
→接し方等を知る機会を設けることが大切

# アンケート項目
# 民間協力者

# 質問12. 民間協力者の認知度



# 経営者の「協力雇用主」の認知度

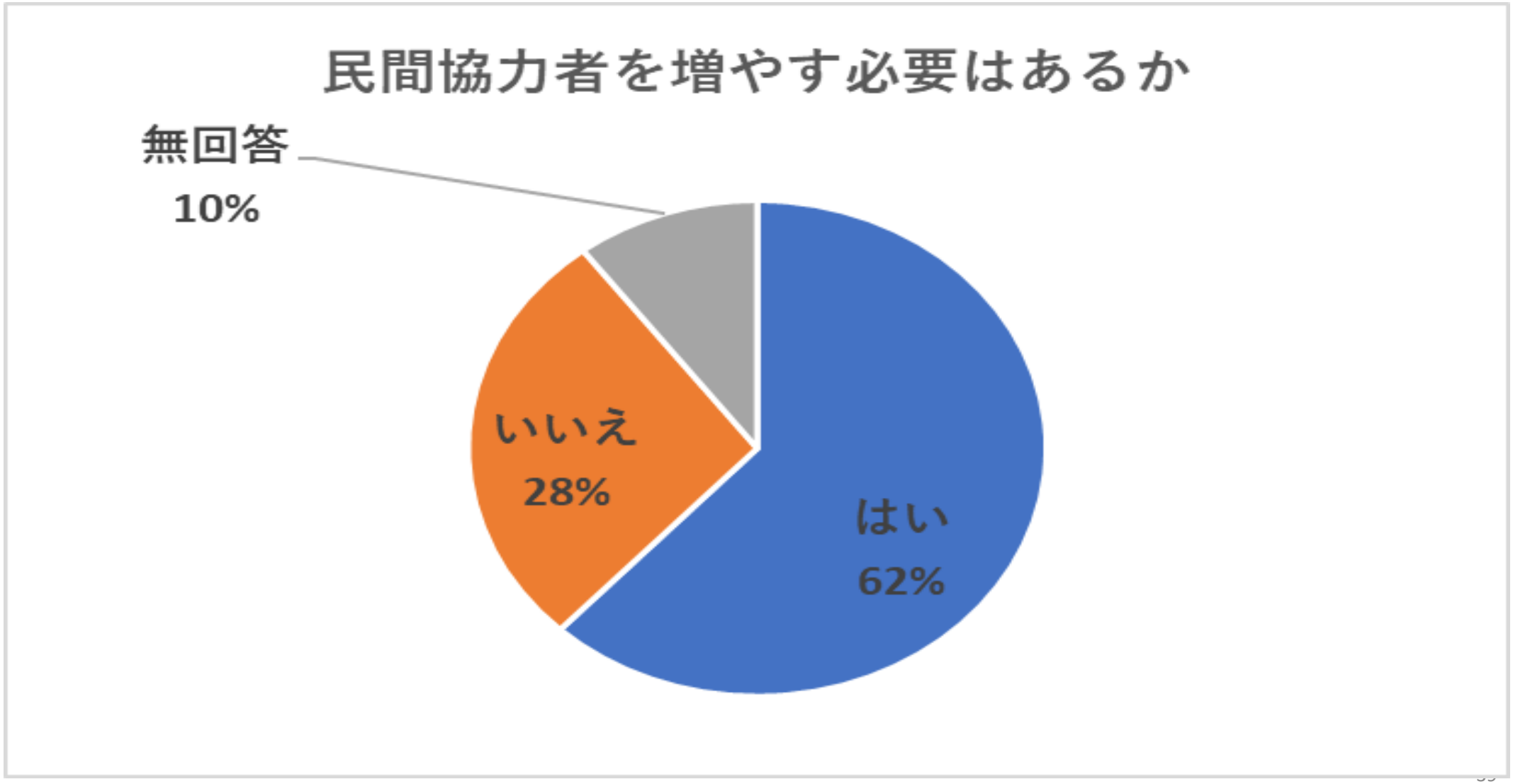


# 考察｜民間協力者の認知度

・知っている民間協力者として「保護司」の回答が一番多い
・経営者の民間協力者の認知度は全体と大きな差はない
・経営者の「協力雇用主」の認知度が高くない
→経営者に対する「協力雇用主」の広報が必要ではないか。

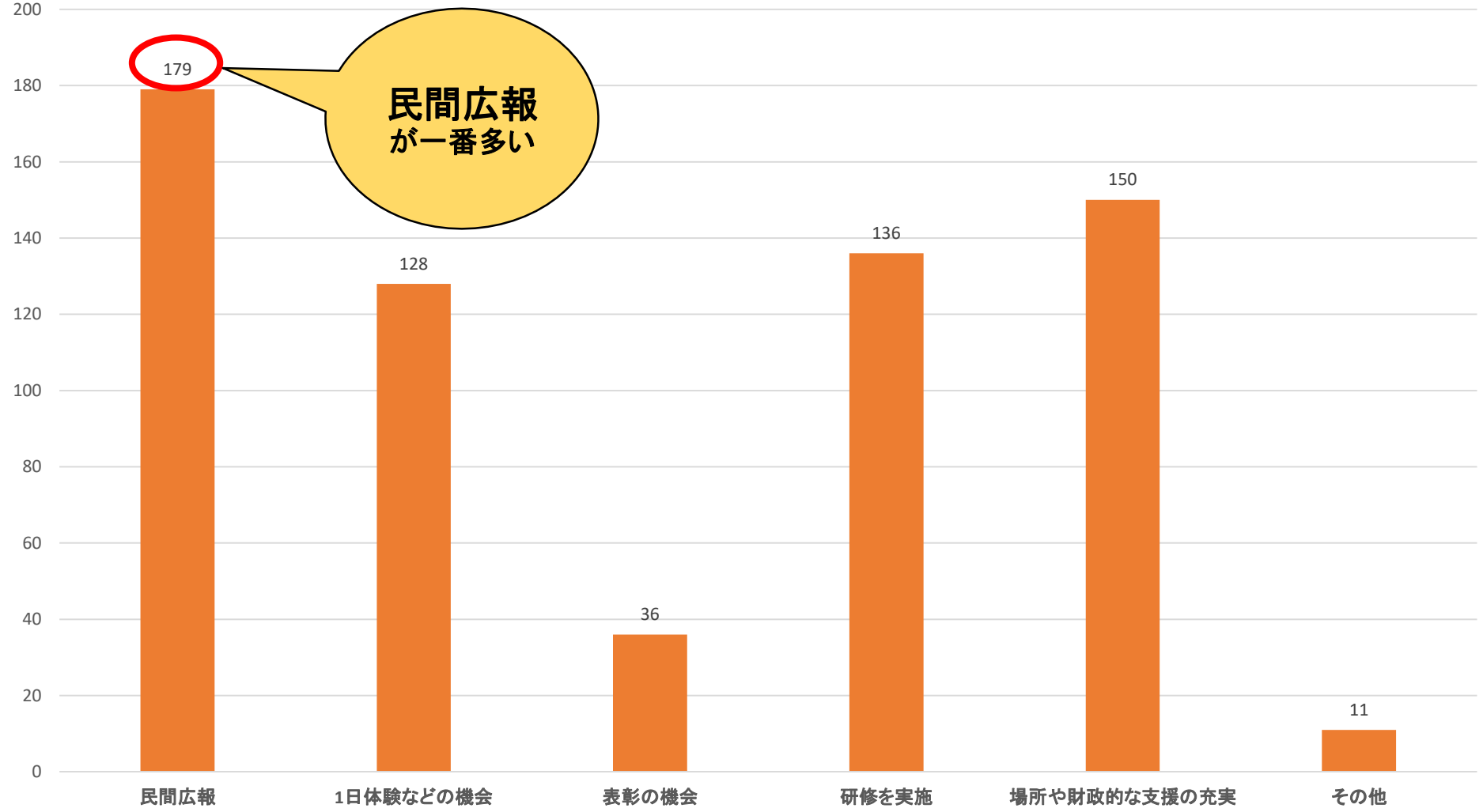
(学生の意見)
・民間協力者の認知度を上げるためには、どのように知ったのかを聞く必要がある。

# 質問13. 民間協力者を増やすべきか



# 質問14. 民間協力者を増やす方法

浜田市は民間協力者を増やすために何をすべきか



# 考察｜民間協力者を増やす

- 62%の人が民間協力者を増やす必要があると考えている
- 民間協力者を増やす方法は「民間広報」という意見が多い

(学生の意見)

- 表彰では新しく民間協力者になろうと考える人に対しては「あの人は優秀な人だ」程度の情報しか与えることが出来ない。

→民間協力者になりたい人が詳細な情報を得られる機会を作ることが大切

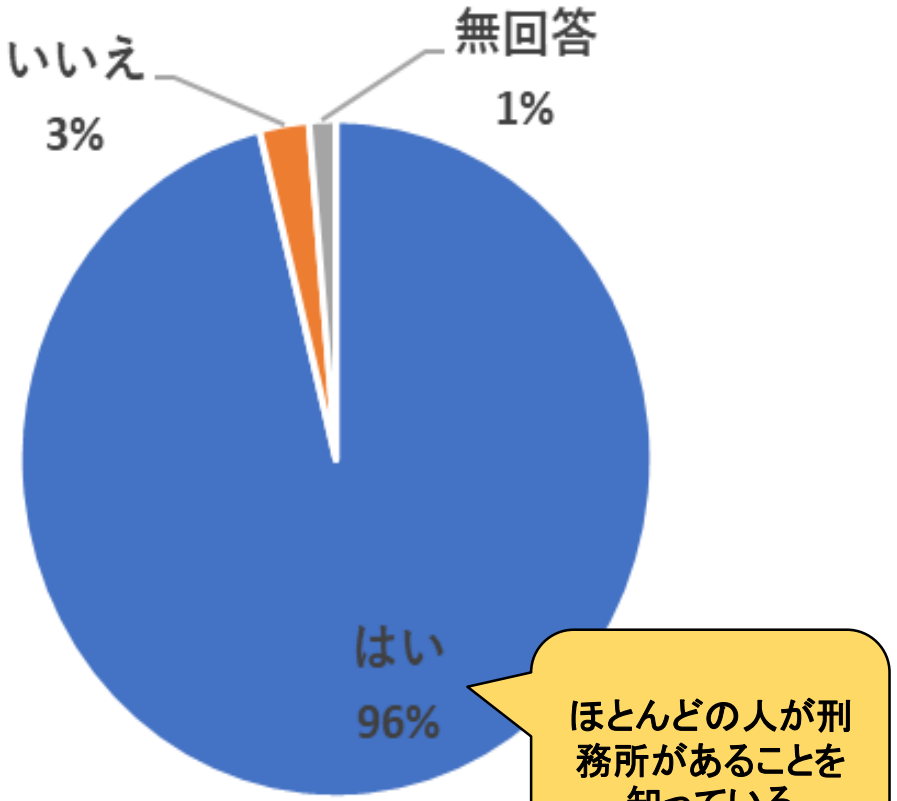
- 広報を利用して詳細な情報の提供や民間協力者の募集を行うことが出来そう。
- 経営者の方は比較的時間・金銭面共に余裕があり、一般の方より再犯防止に関わりやすい。

→経営者の方への民間協力者全体の重点的な広報は効果が期待できる。

# アンケート項目
# 刑務所・受刑者への理解

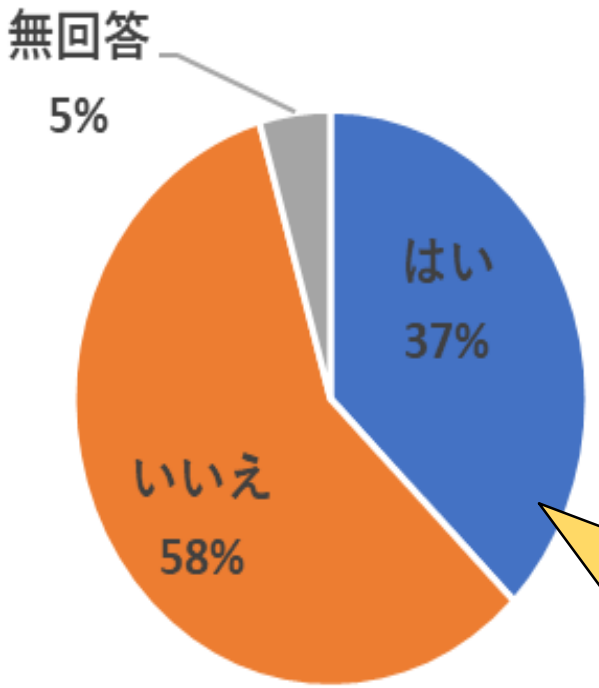
# 質問15･16. 刑務所について

浜田市に刑務所があることを知っているか



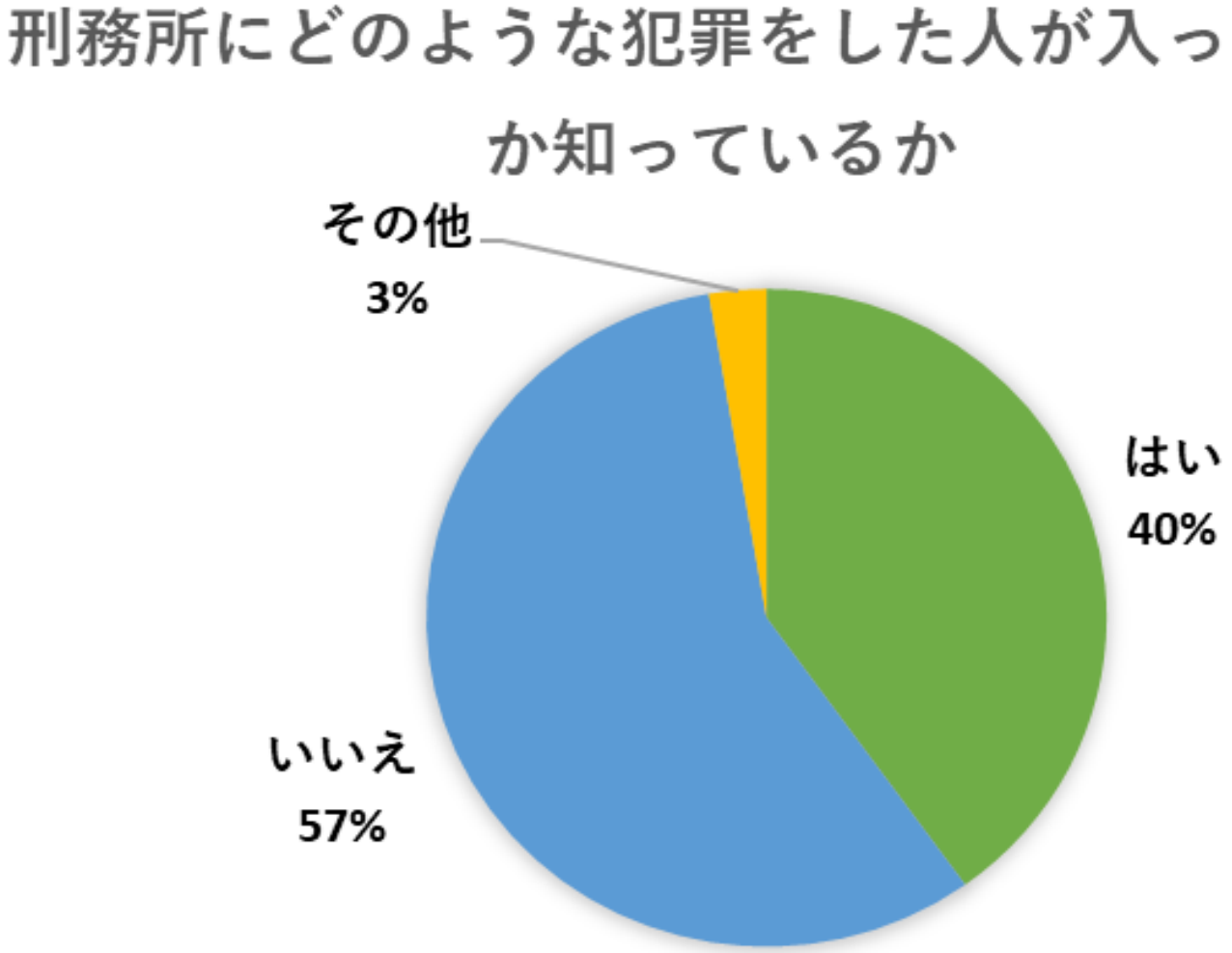

ほとんどの人が刑務所があることを知っている

刑務所や受刑者への理解を深めるために施設見学したいか




理解を深めるために施設見学をしたい人は約4割

# 質問17. 刑務所内の受刑者への理解



# 考察｜刑務所の認知度等について

- あさひ社会復帰促進センターの認知度はかなり高い
- 一方で、施設見学をして刑務所や受刑者の理解を深めたい人という人は少なく、入所者が犯した罪についても約60%が知らない

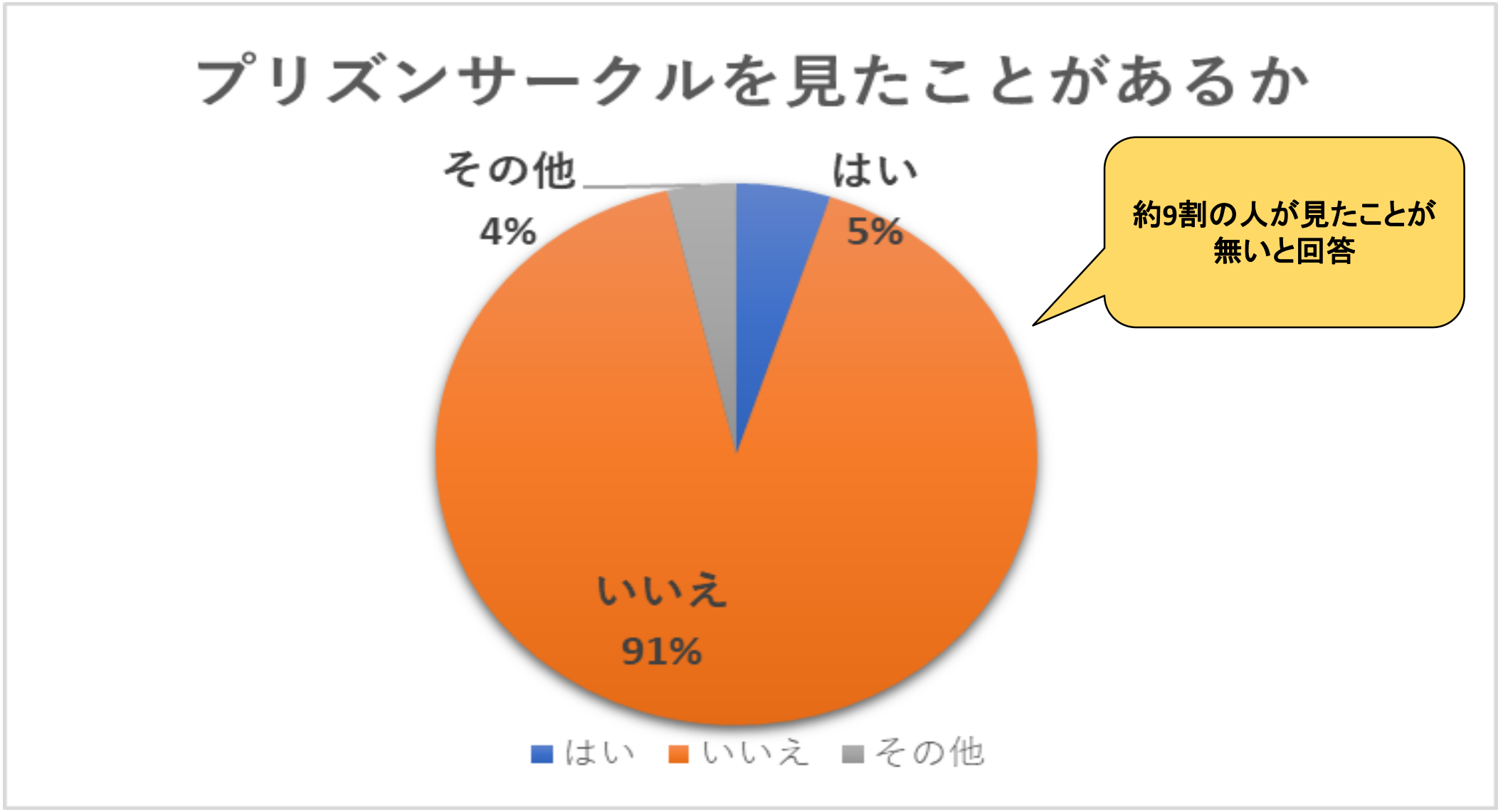
(学生の意見)

- 浜田に刑務所があるということを知っていれば十分と考え、それ以上に刑務所や受刑者への関心や興味を深めたいという意識は無いのではないか。
- あさひ社会復帰促進センターには軽微な犯罪をしたが現在は社会復帰を目指している人達が収容されている、という事実を知ってもらうことが大切。
- 罪を犯した人という目で見れば、そのような人達と関わりを持ちたくないと考えてしまうため、罪名が何であろうと知りたくないかもしれない。

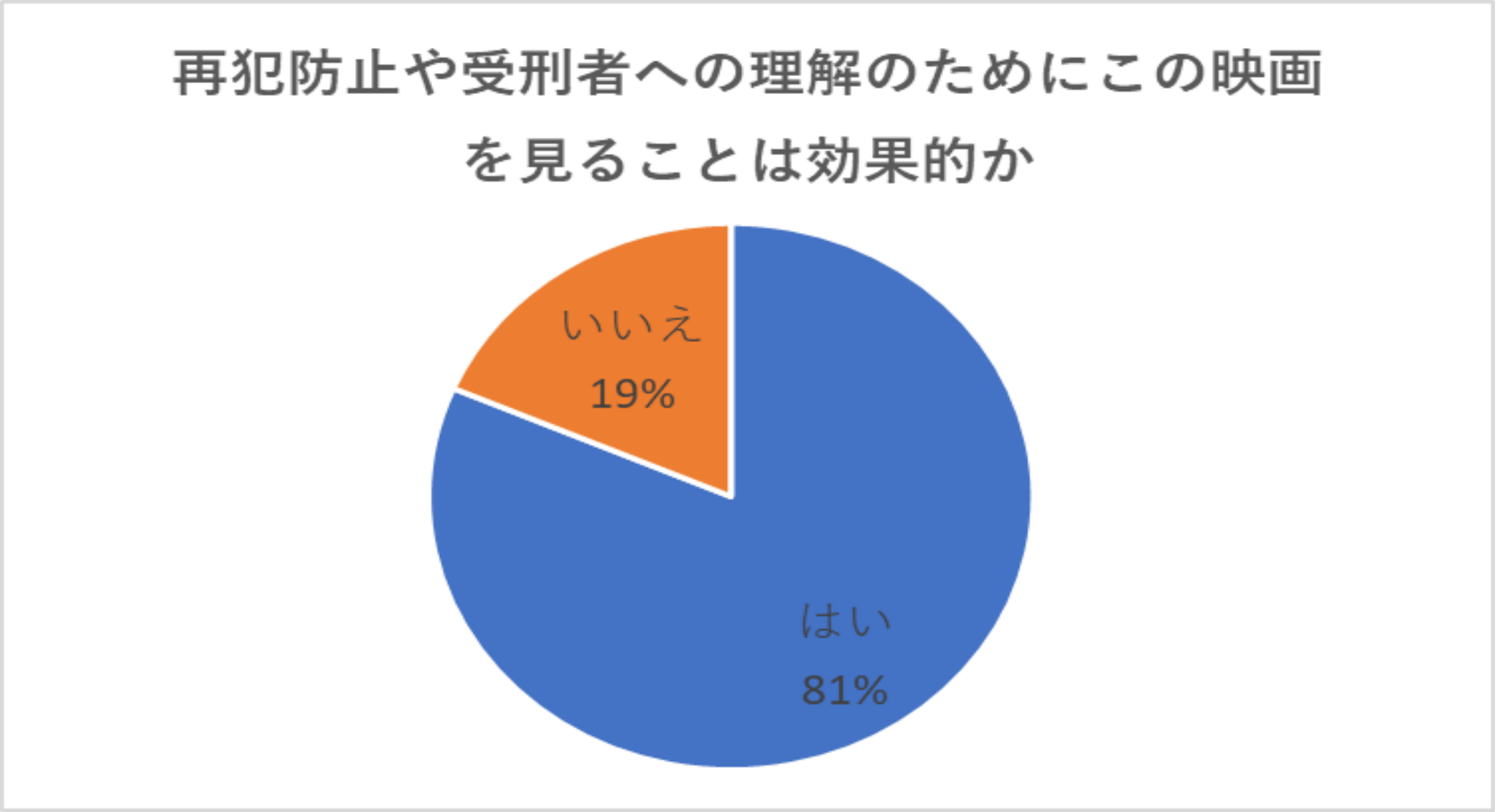
→刑務所の中がどうなっているか見てみる、という軽い気持ちで刑務所見学等に参加してもらい、それをきっかけに受刑者への理解や関心を深める方向に持っていけたらよい

# アンケート項目
# 「PRISON CIRCLE」

# 質問18. 映画鑑賞したか



# 質問19. 映画鑑賞の効果



# 考察｜映画鑑賞による再犯防止

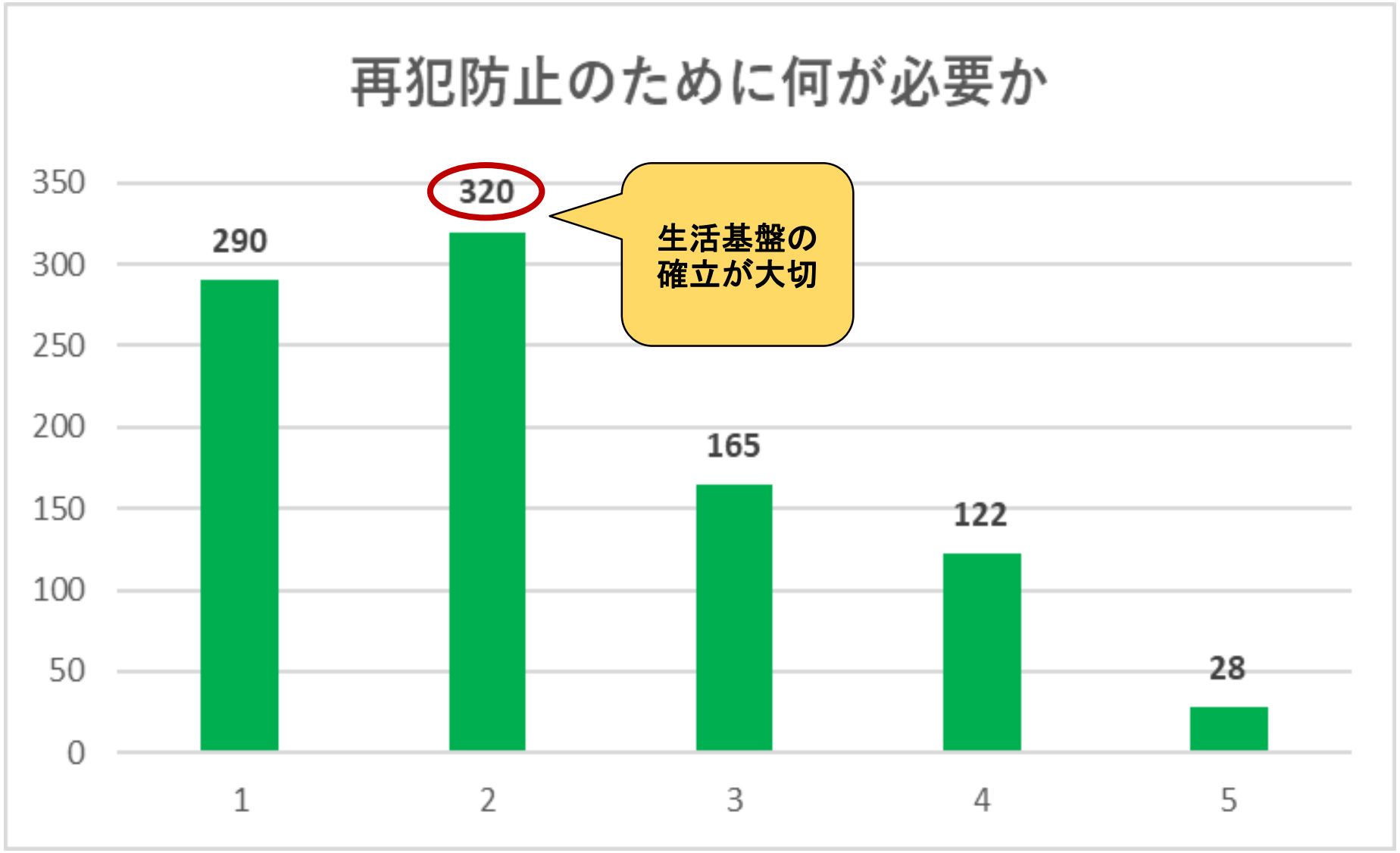
- 更生しているシーン等で共感を得て受刑者への理解を深めることができ、再犯防止につなげることができる。
- 一方で、直接的に地域ぐるみの再犯防止を訴えることができないため、映画の効果は視聴者の受け取り方による。

…アンケートの自由記述で「良い所しか映さない、悪い所は編集されている」という意見もあった。

- 映画を見た人のうち約80%が映画鑑賞が受刑者への理解を深めるために効果的だと回答した。しかし質問19はプリズンサークルを見たことがある人の中で効果的であるか聞いているため、母数が少なく正確な統計であるとは言えない。

# アンケート項目
# 市の再犯防止推進

# 質問20. 再犯防止に必要なこと




1. 刑事司法関係機関によるきめ細かい指導

2. 仕事と住居を確保した生活基盤

3. 犯罪を犯した高齢者などに福祉制度を促進する

4. 地域ぐるみで支援

5. その他

# 考察｜再犯防止に必要なこと

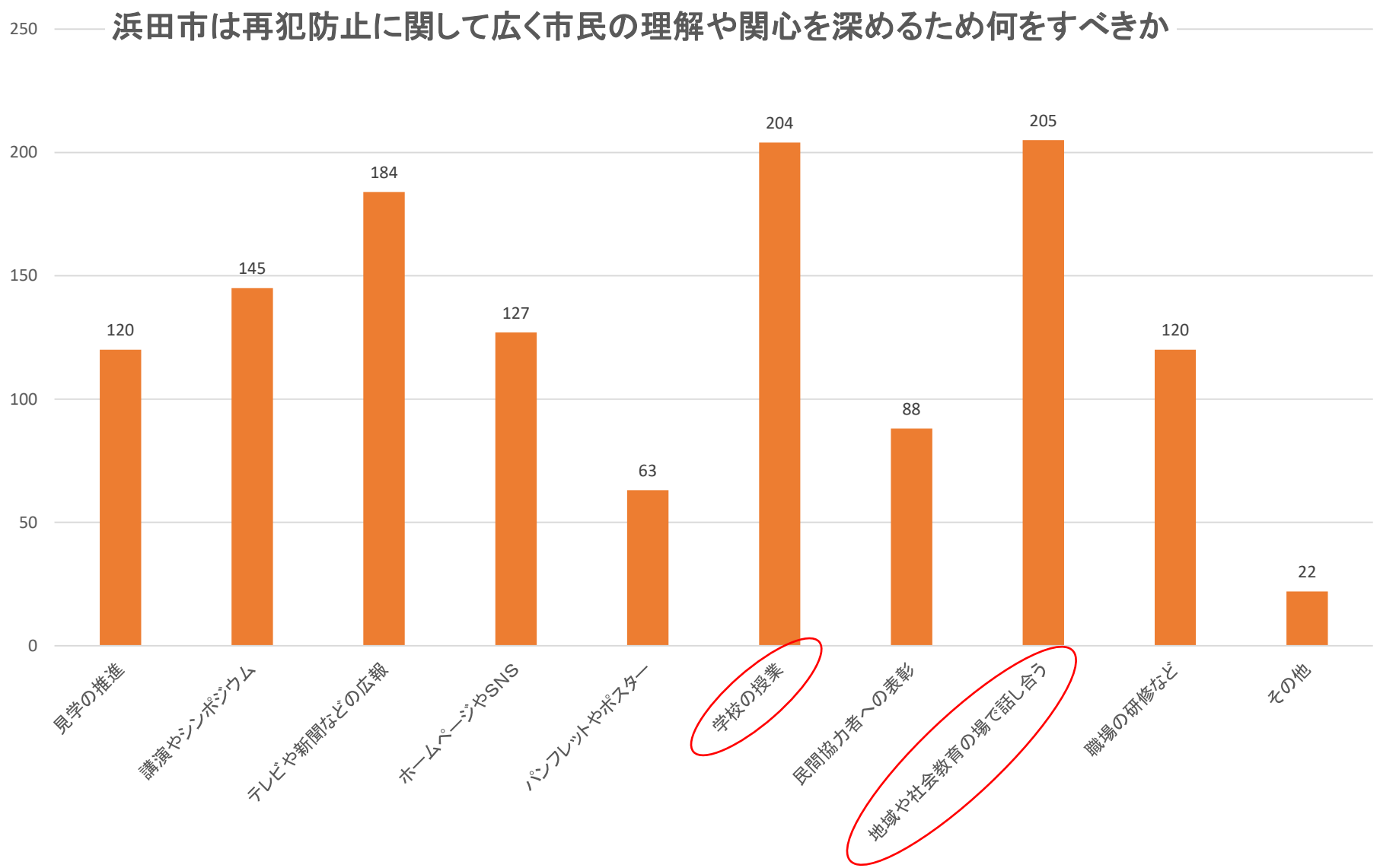
・住居と仕事の確保

…専門部会でヒアリングした際にも多くの方が、就労支援や住居支援をし快適な環境で生活できるようにすることで、出所者のストレスや悩みを極力減らすことができ、再犯防止に効果的であるのではないかと話されていた。

・行動に移しやすいこと

…選択肢に挙げられていることは簡単に出来ることではないという意見や、これらの支援をすると費用がかかりすぎてしまうといった意見があった。

# 質問21. 再犯防止への理解を促す方法



# 考察｜市民の再犯防止への理解を促す方法

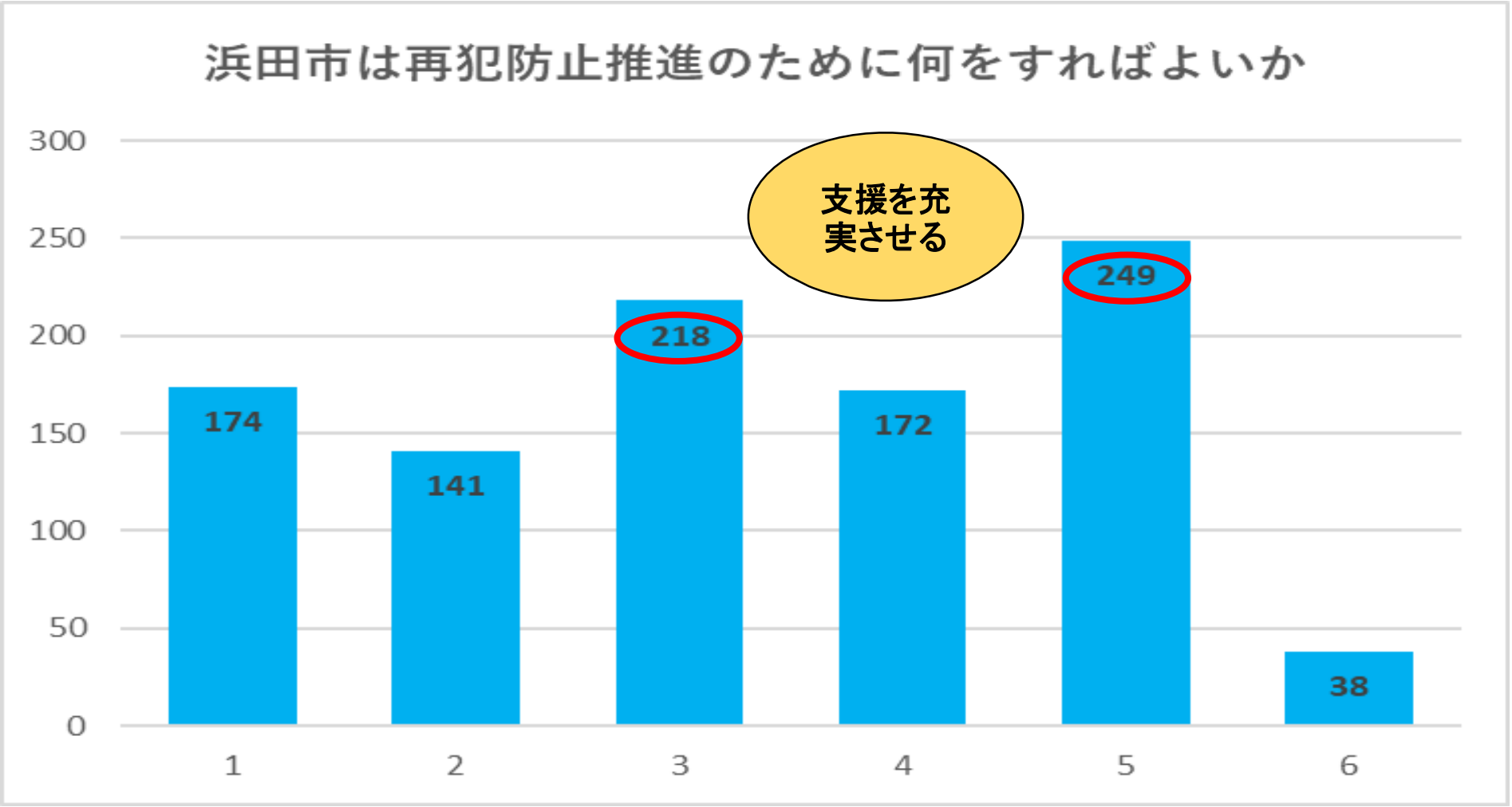
- 地域や社会教育の場や学校と行った公共の場で話す・聞くことが再犯防止への理解や関心を深めるためのに効果的。

- 民間協力者への表彰やパンフレットやポスター、ホームページやSNSで理解や関心を深める方法は回答数があまり多くなかった

(学生の意見)

- 民間協力者への表彰、パンフレットやポスター、ホームページやSNSでは、情報が一時的にしか住民の目に留まらないため、回答が少なかったのではないか。

# 質問22. 市の再犯防止推進




1. 再犯防止計画の策定

2. 公的機関での雇用

3. 支援ネットワークを作る

4. 住民に対する広報・啓発活動

5. 民間協力者の活動場所や財政的支援の充実

6. その他

# 考察｜市民が望む再犯防止活動

・再犯防止の活動に直接的に関わる事業を求める意見が多かった。

(民間協力者への支援・社会復帰支援ネットワークの構築)

→再犯防止のために、犯罪をした人の社会復帰を助け見守る仕組みづくりや財政的支援が必要とされている。

# まとめ

# 全体のまとめ

良い所

・浜田市全体において出所者の社会復帰に比較的理解があり協力的

①地域住民による社会復帰支援や民間協力者を増やすことに賛成する人が多い。

②生活基盤の確保が再犯防止のために大切だという意見も多い。

③上記のことについて、年代・地域ごとの差異が少ない。

課題

・実際に自分が行動を起こすことに消極的な人が少なくない。

①出所者の居住や就職への抵抗は半々。

②社会復帰に協力したいかも半々。

# 全体のまとめ

原因

・情報不足…接し方が分からない、不安

・市に直接的な支援を求めるのも、自分達ではやり方が分からないためと考えれられる。

・「犯罪者」というような言葉への偏見や拒絶反応は大きな原因ではなさそう。

対処

・情報不足を解決する。

①広報：テレビや新聞の活用、市だけでなく民間企業や団体からの発信

②出所者の社会復帰支援に段階的に関われるようなきっかけづくり：講演や学校教育

# その他学生の意見

・地域ぐるみの再犯防止の土壌づくりを丁寧にすることが大切
→①市と住民が対等な立場で相互に理解を深めることができる
　②再犯防止の政策が住民に間違いがないように共有・理解される
→理解者・協力者が増える
例えば…
・市と住民との意見交換会など互いの生の声を聞ける場
↑堅くない場所での実施(公民館など)

# 皆様の協力があり、このプロジェクトを進めることができました。ご協力ありがとうございました。

【協力いただいた皆様】

浜田市役所　地域福祉課　重田様

浜田警察署

島根あさひ社会復帰促進センター

松江保護観察所

浜田市社会福祉協議会

浜田市民の方々